

平成25年度 千葉県 袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書
宮ノ後遺跡第2次調査 向山野遺跡第7次調査 向山野遺跡第8次調査 寺野台遺跡第6次調査 百々目木C遺跡第2次調査 山野貝塚第6次調査
袖ヶ浦市教育委員会

平成25年度
千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

宮ノ後遺跡第2次調査
向山野遺跡第7次調査
向山野遺跡第8次調査
寺野台遺跡第6次調査
百々目木C遺跡第2次調査
山野貝塚第6次調査

平成26年3月
袖ヶ浦市教育委員会

平成25年度

千葉県

袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

みやのうしろ

宮ノ後遺跡第2次調査

むけざんや

向山野遺跡第7次調査

むけざんや

向山野遺跡第8次調査

てらのだい

寺野台遺跡第6次調査

どどめ

百々目木C遺跡第2次調査

さんやかいづか

山野貝塚第6次調査

平成26年3月

袖ヶ浦市教育委員会

序 文

袖ヶ浦市は、東京湾に面する房総半島内房地区の中ほどに位置し、臨海部の工場地帯、内陸部の農業地帯、及び住宅地帯などで構成されています。近年では東京湾連絡道路の開通、圏央道の一部開通など、首都圏へのスムーズなアクセスを活かし、袖ヶ浦駅海側特定土地区画整理事業、椎の森工業団地2・3期用地の整備計画など、更なる発展を目指しております。

このような発展により開発行為の件数は増加を続けておりますが、埋蔵文化財が所在する箇所での開発計画も後を絶ちません。地中にある遺跡は開発行為により一度破壊されると、元に戻すことができないという性格を持っています。埋蔵文化財は国民共有の財産として、破壊せずに現状のまま保存することが最も望まれる所以です。しかしながら、経済的発展や住民の生活等を考慮すれば、全てを保存することは現実的ではなく、「開発と文化財保護」のバランスを取ることが重要な行政課題となっております。

そこで本市では、国庫及び県費の補助を受け、開発に先立ち各遺跡の状況を把握することで、開発行為と埋蔵文化財の保護との調和を図ることを目的に、市内の埋蔵文化財の発掘調査事業を実施しております。また、特に重要な遺跡については、より細かな情報を付加して将来へ受け継ぐために、保存目的のための発掘調査も併せて実施しております。

これらの発掘調査で得られた成果は、共有の財産として広く公開するために、報告書という形で記録・刊行しております。1人でも多くの市民の皆さまに本書を手にしていただき、埋蔵文化財への理解と関心を高めるとともに、かつてこの遺跡に生きた人々に、思いを馳せていただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、発掘調査の実施から発掘調査報告書の刊行にいたるまでご指導、ご協力をいただきました千葉県教育委員会文化財課をはじめ、関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 3 月

袖ヶ浦市教育委員会
教育長 川島 悟

例 言

1. この報告書は、平成 25 年度に調査を実施した宮ノ後遺跡第 2 次調査・向山野遺跡第 7 次調査・向山野遺跡第 8 次調査・寺野台遺跡第 7 次調査・百々目木 C 遺跡第 2 次調査・山野貝塚第 6 次調査を収録した平成 25 年度袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書である。

2. 調査は、国庫・県費補助事業として千葉県教育委員会の指導を受け、発掘調査から整理作業までの業務を袖ヶ浦市教育委員会が実施した。

3. 調査ならびに整理作業期間は、下記のとおりである。

宮ノ後遺跡第 2 次調査 平成 25 年 5 月 8 日～同年 5 月 16 日、平成 26 年 2 月 5 日～同年 2 月 12 日

向山野遺跡第 7 次調査 平成 25 年 8 月 12 日、平成 26 年 2 月 5 日～同年 2 月 12 日

向山野遺跡第 8 次調査 平成 25 年 8 月 14 日～同年 8 月 16 日、平成 26 年 2 月 5 日～同年 2 月 12 日

寺野台遺跡第 6 次調査 平成 26 年 1 月 10 日～同年 1 月 23 日、平成 26 年 2 月 12 日～同年 2 月 22 日

百々目木 C 遺跡第 2 次調査 平成 26 年 1 月 27 日～同年 2 月 3 日、平成 26 年 2 月 12 日～同年 2 月 22 日

山野貝塚第 6 次調査 平成 26 年 2 月 12 日～同年 2 月 21 日、平成 26 年 2 月 24 日～同年 2 月 28 日

4. 各遺跡の所在地は、下記のとおりである。

宮ノ後遺跡第 2 次調査 袖ヶ浦市神納字宮ノ後 3, 383 番 1 他

向山野遺跡第 7 次調査 袖ヶ浦市飯富字浜海道 3, 002 番 1 他

向山野遺跡第 8 次調査 袖ヶ浦市飯富字浜海道 3, 002 番 1 他

寺野台遺跡第 6 次調査 袖ヶ浦市川原井字寺地 637 番の 2 他

百々目木 C 遺跡第 2 次調査 袖ヶ浦市蔵波字百々目木 2, 905 番 1

山野貝塚第 6 次調査 袖ヶ浦市飯富 3, 550 番 3 他

5. 各遺跡の調査ならびに整理作業・報告書作成の担当者は、下記のとおりである。

宮ノ後遺跡第 2 次調査 調査：前田雅之 整理・報告書作成：前田雅之

向山野遺跡第 7 次調査 調査：田中大介 整理・報告書作成：田中大介

向山野遺跡第 8 次調査 調査：田中大介 整理・報告書作成：田中大介

寺野台遺跡第 6 次調査 調査：桐村久美子 整理・報告書作成：桐村久美子

百々目木 C 遺跡第 2 次調査 調査：前田雅之 整理・報告書作成：前田雅之

山野貝塚第 6 次調査 調査：田中大介 整理・報告書作成：田中大介

6. 報告書で使用した地形図は、以下のとおりである。

第 1 図 国土地理院発行 1/25, 000 地形図 奈良輪・姉崎・木更津・上総横田

7. 本書で使用したトレンチ名や遺構名は、基本的に発掘調査時のものを使用した。

8. 本書の挿図の表記は、便宜上調査次数を（ ）で示した。 第 2 次調査 → （2）

9. 今回の調査に伴う遺物・記録類等は、袖ヶ浦市教育委員会で保管する予定である。

10. 各遺跡のコードは、宮ノ後遺跡（SG 077）・向山野遺跡（SG 029）・寺野台遺跡（SG 098）・百々目木 C 遺跡（SG 037）・山野貝塚（SG 110）である。各遺跡の調査は、数次にわたり実施されていることから、遺跡名の後に括弧付けの数字で調査次数を表記することとした（例 宮ノ後遺跡（2）→SG 077（2））。

11. 調査から報告書刊行にいたるまで、千葉県教育委員会をはじめとする関係諸機関の方々からご指導・ご協力をいただいた。また、現地での作業においては調査区の土地所有者各位の協力をいただいた。記して謝意を表したい。

目 次

序文	
例言	
序 章 調査概要	 1
1. 調査に至る経緯	2. 調査経過
3. 調査組織	
第2章 宮ノ後遺跡第2次調査	 3
1. 周辺の遺跡と環境	2. 調査と遺跡の概要
3. まとめ	
第3章 向山野遺跡第7次調査・第8次調査	 5
1. 周辺の遺跡と環境	2. 調査と遺跡の概要
3. まとめ	
第4章 寺野台遺跡第6次調査	 8
1. 周辺の遺跡と環境	2. 調査と遺跡の概要
3. まとめ	
第5章 百々目木C遺跡第2次調査	13
1. 周辺の遺跡と環境	2. 調査と遺跡の概要
3. まとめ	
第6章 山野貝塚跡第6次調査	15
1. 周辺の遺跡と環境	2. 調査と遺跡の概要
3. まとめ	

挿 図 目 次

第1図 調査遺跡位置図
第2図 宮ノ後遺跡（2）周辺の地形・位置図
第3図 宮ノ後遺跡（2）遺構確認状況図・出土遺物
第4図 向山野遺跡・真里場古墳群周辺地形図
第5図 向山野遺跡（7）遺構確認状況図
第6図 向山野遺跡（8）（真里場古墳群第19号墳）遺構実測図・出土遺物実測図
第7図 寺野台遺跡周辺の地形・位置図
第8図 寺野台遺跡（6）遺構確認状況図1 南調査区
第9図 寺野台遺跡（6）遺構確認状況図2 北調査区
第10図 寺野台遺跡（6）出土遺物実測図
第11図 百々目木C遺跡（2）周辺の地形・位置図
第12図 百々目木C遺跡（2）遺構確認状況図・出土遺物実測図
第13図 山野貝塚周辺の地形・位置図
第14図 山野貝塚全体図
第15図 山野貝塚（6）遺構確認状況図・出土遺物実測図

図 版 目 次

図版 . 1 宮ノ後遺跡 (2)

1. 調査区近景
2. 3T遺構確認状況
3. 3T土層断面
4. 4T遺構確認状況
5. 調査風景
6. 10 T遺構確認状況
7. 12 T遺構確認状況
8. 出土遺物

図版 . 2 向山野遺跡 (7) (8)

1. 調査区近景
2. 2T・3T遺構確認状況
3. 第19号墳確認状況
4. 第19号墳完掘状況
5. 第19号墳完掘状況
6. 第19号墳周溝土層断面
7. 出土遺物

図版 . 3 寺野台遺跡 (6) 1

1. 南調査区近景
2. 北調査区近景
3. 調査風景
4. 1T遺構確認状況
5. 6T遺構確認状況
6. 7T遺構確認状況
7. 15 T遺構確認状況
8. 18 T遺構確認状況

図版 . 4 寺野台遺跡 (6) 2

1. 19 T遺構確認状況
2. 23 T遺構確認状況
3. 24 T遺構確認状況
4. 28 T遺構確認状況
- 5～14. 出土遺物

図版 . 5 百々目木C遺跡 (2)

1. 調査区近景
2. 6T西壁土層断面
3. 7T遺構確認状況
4. 8T東壁土層断面
5. 出土遺物

図版 . 6 山野貝塚 (6)

1. 調査区近景
2. 33 T遺構確認状況
3. 37 T遺構確認状況
4. 37 T土層断面
5. 38 T遺構確認状況
6. 38 T土層断面
7. 出土遺物

序章 調査概要

1. 調査に至る経緯

袖ヶ浦市教育委員会では、市内に所在する遺跡について、開発行為に際して事業を行う場所や実施方法を検討する資料を得るために、また、遺跡保存目的の範囲確認のために国及び県の補助金を受けて発掘調査を実施している。

平成 25 年度は、次の 6 件について確認調査から発掘調査報告書作成までを実施した。

- 1 宮ノ後遺跡第 2 次調査（確認調査）… 宅地造成に伴う調査
- 2 向山野遺跡第 7 次調査（確認調査）… 個人住宅建築に伴う調査
- 3 向山野遺跡第 8 次調査（本調査）… 個人住宅建築に伴う調査
- 4 寺野台遺跡第 6 次調査（確認調査）… 寺院建設に伴う調査
- 5 百々目木 C 遺跡第 2 次調査（確認調査）… 資材置き場造成に伴う調査
- 6 山野貝塚第 6 次調査（確認調査）… 貝塚範囲確認に伴う学術調査

2. 調査経過

宮ノ後遺跡第 2 次調査

5 月 2 日：仮設トイレ設置、8 日：重機搬入、環境整備、トレンチ掘削、写真撮影、9 日：トレンチ掘削、遺構確認作業、写真撮影、10 日：トレンチ掘削、遺構確認作業、写真撮影、平面実測、13 日：遺構確認作業、平面実測、断面実測、写真撮影、14 日：遺構確認作業、平面実測、断面実測、写真撮影、15 日：埋戻し、16 日：埋戻し、写真撮影、重機搬出、仮設トイレ撤去

向山野遺跡第 7 次調査

8 月 12 日：重機搬入、環境整備、写真撮影、トレンチ掘削、遺構確認作業、平面実測、重機搬出、仮設トイレ設置

向山野遺跡第 8 次調査

8 月 14 日：表土除去、遺構確認作業、写真撮影、15 日：遺構精査、断面実測、平面実測、写真撮影、16 日：平面実測、写真撮影、重機搬入、埋戻し、重機搬出、仮設トイレ撤去

寺野台第 6 次調査

1 月 10 日：環境整備、仮設トイレ設置、15 日：基準点測量、トレンチ設定、16 日：重機搬入、トレンチ掘削、17・20 日：トレンチ掘削、重機搬出、21 日：北側調査区トレンチ精査、写真撮影、平面図・断面図作成、22 日：北側調査区トレンチ精査、写真撮影、平面図・断面図作成、南側調査区トレンチ精査、写真撮影、重機搬入、58 T・59 T トレンチ掘削、48 T・49 T 拡張、北側調査区埋戻し、23 日：南側調査区トレンチ精査、写真撮影、平面図・断面図作成、埋戻し、重機搬出、24 日：仮設トイレ撤去

百々目木 C 遺跡第 2 次調査

1 月 27 日：環境整備、仮設トイレ設置、重機搬入、トレンチ掘削、29 日：遺構確認作業、写真撮影、30 日：遺構確認作業、写真撮影、31 日：遺構確認作業、写真撮影、平面実測、断面実測、2 月 3 日：遺構確認作業、写真撮影、平面実測、埋戻し、重機搬出、仮設トイレ撤去

山野貝塚第6次調査

2月12日：環境整備、トレンチ掘削、トレンチ精査、写真撮影、14日：仮設トイレ設置、17日：トレンチ掘削、18日：トレンチ精査、平面実測、断面実測、写真撮影、19日：トレンチ掘削、トレンチ精査、平面実測、断面実測、埋戻し、21日：埋戻し、写真撮影、環境整備、24日：仮設トイレ撤去

3. 調査組織

調査主体 袖ヶ浦市教育委員会

教 育 長 川島 悟

教 育 部 長 蔭山 弘

教育部次長 鈴木 和博

教育部参事兼生涯学習課長 井口 崇

副 課 長 西原 崇浩

副 主 幹 桐村 久美子

副 主 査 田中 大介

副 主 査 前田 雅之

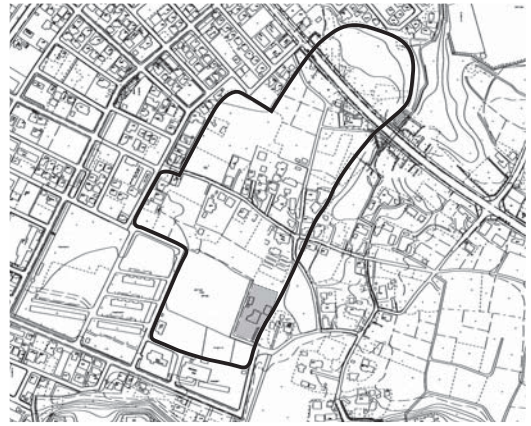


第1図 調査遺跡位置図 (1:50,000)

第2章 宮ノ後遺跡第2次調査

1. 周辺の遺跡と環境（第2図）

宮ノ後遺跡は小櫃川右岸の標高約33mの袖ヶ浦台地上に位置する。遺跡は南北に長く、北側は樹枝状の浸食谷の谷奥に面し、南側は台地南縁、小櫃川右岸に広がる沖積平野を見下ろす位置にある。



本遺跡北側で実施した第1次調査では遺構は確認されず弥生時代後期・古墳時代後期土器が出土したのみである。第2図 宮ノ後遺跡（2）周辺の地形・位置図
周辺の遺跡を概観すると、本調査区の南東に近接する中（1:10,000）

辻台古墳では6世紀初頭の埴輪が出土し、同ヶ所に展開する中辻台遺跡からは弥生時代後期～奈良・平安時代にかけての住居跡9軒が確認された。調査区の東に隣接する個所には754年創建との縁起が伝わる率土神社が鎮座しており、その南には6世紀初頭の築造と推定される、二段構築の帆立貝式前方後円墳である率土神社南古墳が所在する。

2. 調査と遺跡の概要（第3図、図版1）

調査方法 調査は宅地造成事業に伴い2418.68㎡を調査対象として実施した。確認調査トレンチは2×5mを基本としたが、必要に応じて一部任意に設定、拡張したものがある。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。遺構確認面はソフトローム漸移層下層としたが、必要に応じてソフトローム層まで掘り下げた。

遺構・遺物 調査区は平坦な更地であり、かつては東に隣接する率土神社の宮司邸宅が建てられていた。調査区は全体的に削平された後に厚い盛土層に覆われており、現表面から遺構確認面までは1.5m前後を測る。特に調査区南西側では削平の深度が深く、ソフトローム層中まで及ぶ個所がある。

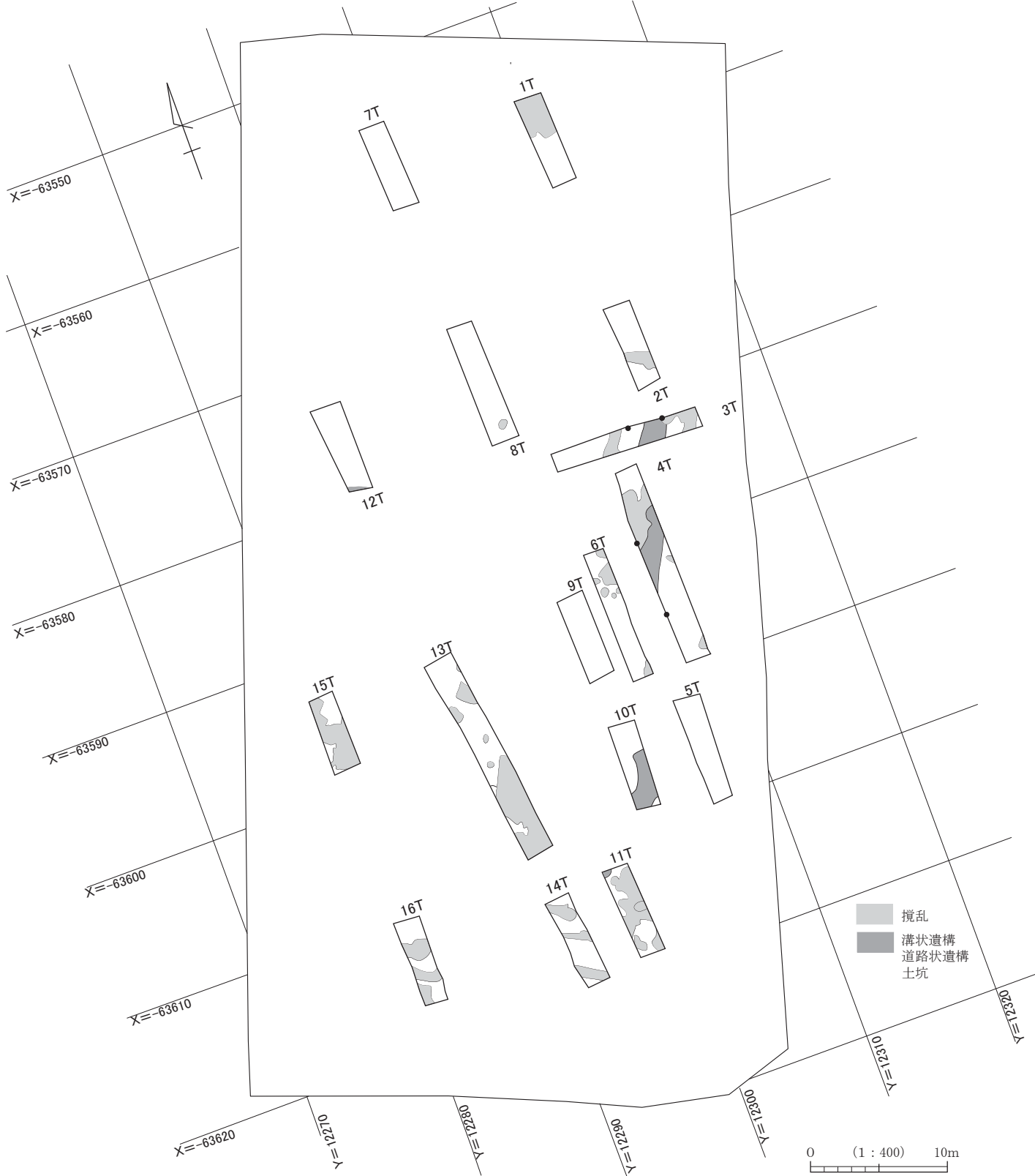
検出された遺構は、近世溝状遺構2条、近世道路状遺構1条、近世土坑1基である。

1・2Tは遺構が確認されなかった。3・4Tでは溝状遺構が確認された。宝永火山灰層に被覆される層を掘り込んでいるため、近世のものと判断した。攪乱が激しく、その全容は明らかではない。隣接する2・6Tでは検出されないため、蛇行するかすぐに途切れられると思われる。5～9Tでは遺構は確認されなかった。10Tで検出された遺構は不整形であるが、遺構覆土から3・4Tで検出されたものと同様の溝状遺構と推定した。11Tで確認された土坑は覆土上面より寛永通宝1点が出土されたため、近世のものと考えられる。12Tでは道路状遺構が確認された。東に隣接する率土神社へと向かっていると思われるが、一部のみ検出されたため、幅等は不明である。13～16Tでは現代の攪乱が多く、特に15・16Tではソフトローム層中まで削平されており、現表面から遺構確認面まで深さ1.7mを測った。

遺物は古墳時代土師器が甕62.9g、高杯64.9g、杯11.86g、不明121.1g出土した。その他、寛永通宝1点（径2.1cm、重量2.06g）、鉄製銭貨（寛永通宝か？）2点、近世鉄製品（鎌）1点が出土した。

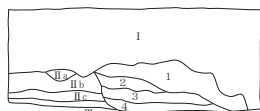
3. まとめ

今回の調査では近世以外の遺構が確認されなかった。攪乱や削平の影響を考慮する必要もあるが、遺物が希薄であることから、本調査区においては近世以外の遺構は展開していなかったと考えられる。



3T

31.2m

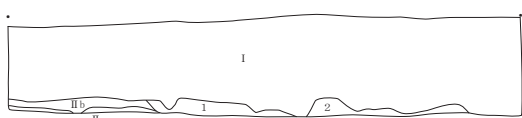


3T土層説明

- I . 盛土層
- II a . 青灰色砂 宝永火山灰層
- II b . 黒褐色土 ロームが粒状に極少量 白色砂粒少量混入
- II c . 暗褐色土 黒褐色土混じる 混入物が見られない 漸移灰
- III . 褐色土 ソフトローム層
- 1 . 黒褐色土 硬化したブロック状の土が混入 ローム斑状に少量混入
- 2 . 黒褐色土 灰白色粘土が少量混入
- 3 . 暗褐色土 灰白色粘土が極少量混入
- 4 . 暗褐色土 ロームが斑に混入 一部硬化したようにしり強い

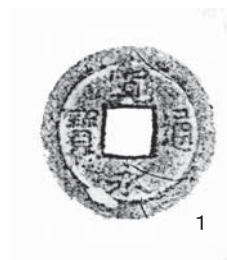
4T

31.2m



4T土層説明

- I . 盛土層
- II b . 黒褐色土
- II c . 漸移層
- III . 褐色土
- 1 . 黒褐色土
- 2 . 黒褐色土
- ソフトローム層
- ローム粒(3~5mm)混入 一部硬化したようにしり強い
- 炭化物少量混入 ローム粒(3~5mm)少量混入(1より少ない)



0 (1:1) 2cm

0 (1:80) 2m

第3図 宮ノ後遺跡(2) 遺構確認状況図・出土遺物

第3章 向山野遺跡第7次調査・第8次調査

1. 周辺の遺跡と環境（第4図）

向山野遺跡は、境川水系と小櫃川水系の分水界に当たる標高約34～39mの台地上に位置する。幅広い台地平坦面の広い範囲に遺跡が展開し、遺跡範囲内には古墳時代後期の群集墳である真里場古墳群を含む。

本遺跡は、これまで6回発掘調査が実施され、弥生時代後期～古墳時代中期の竪穴住居等を検出している。真里場古墳群については、第9～11、13～16、18号墳の部分的な調査が実施されている。また、第2・5次調査では幅6m級の道路状遺構（SD 012）が検出されており、南延長線上に位置する飽富神社、さらに南下した位置に所在する上総大寺との位置関係等から古代官道の可能性が指摘されている。

周辺の遺跡を概観すると、東側隣接地に千葉県指定史跡である縄文時代後・晩期の山野貝塚が所在し、北側近隣には縄文時代早期の炉穴が検出された百々目木C遺跡や旧石器時代の石器群が出土した百々目木B遺跡、向萩原遺跡が所在している。境川を遡ると、古墳時代前・中期を主体とする金井崎遺跡、古墳時代後期～奈良・平安時代を主体とする雷塚遺跡という大規模な集落が所在している。

2. 調査と遺跡の概要（第5・6図、図版2）

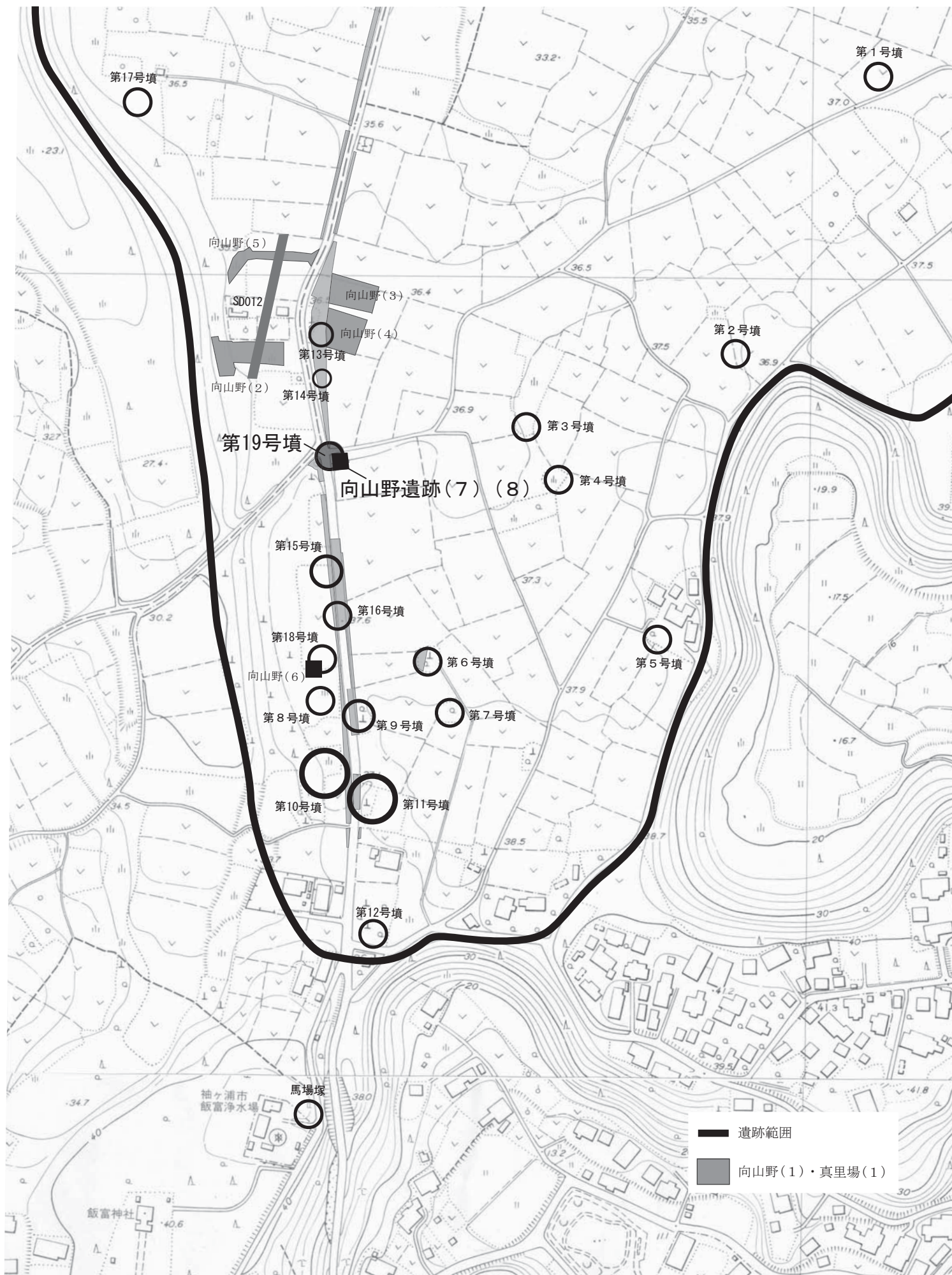
調査方法 調査は個人宅地開発に伴い実施した。調査対象面積110㎡のうち15㎡の確認調査を実施し、遺構が確認された周辺及び試掘調査時に遺構が確認された北側の一部について、引き続き調査面積50㎡の本調査を実施した。両調査とも表土除去は重機により行い、遺構確認作業は人力で行った。

第7次調査 試掘調査を実施した北側部分を除く調査区中央と南側に、東西方向に幅1mのトレンチを設定した。表土下0.3～0.4mまで耕作が及んでおり、大部分がソフトローム層まで耕作を受けていた。1Tはさらに深くまで全面にわたり攪乱を受けており、遺構は検出できなかった。2T、3Tでは古墳の周溝と考えられる溝が1条確認された。遺物は出土しなかった。

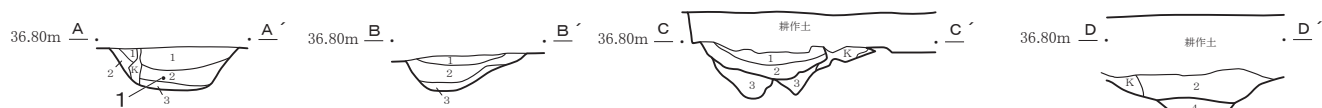
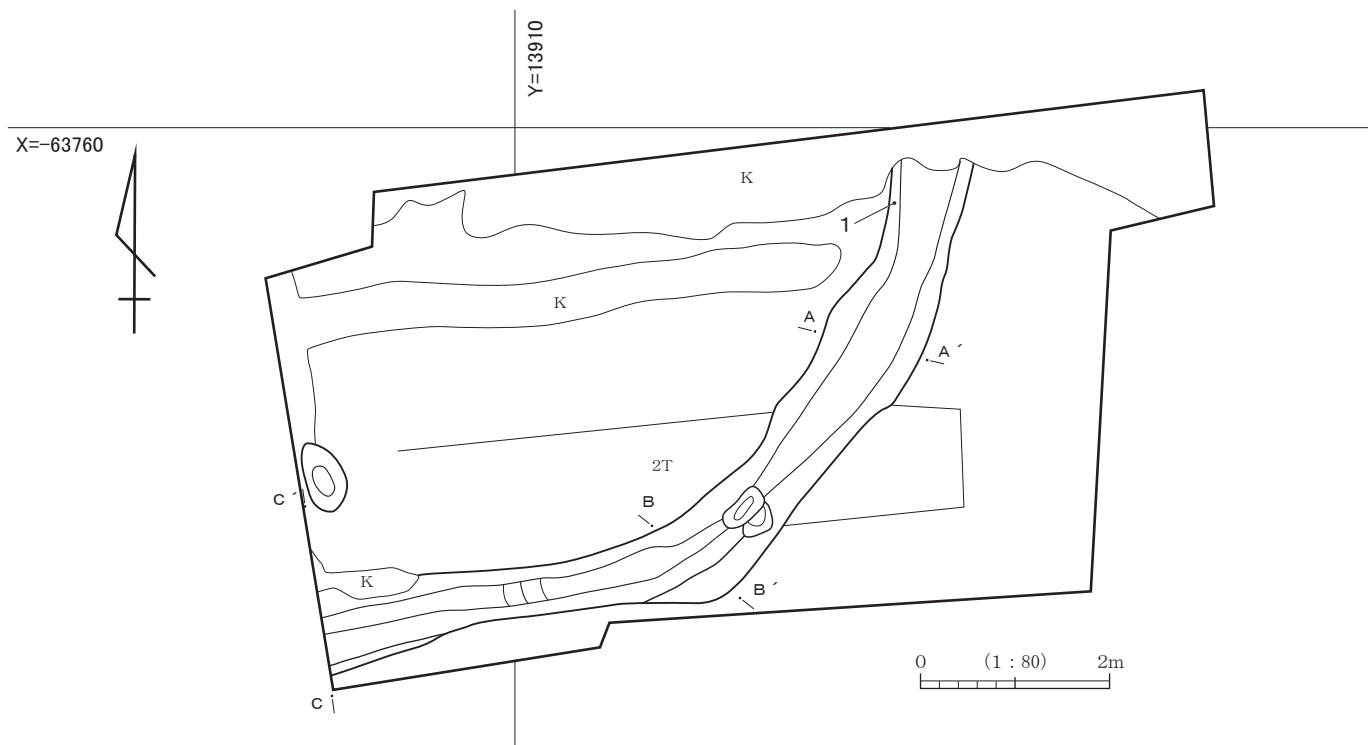
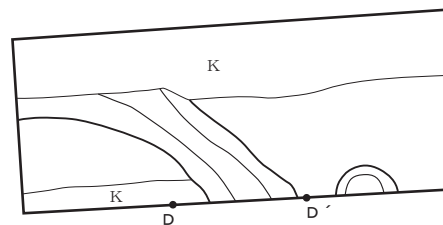
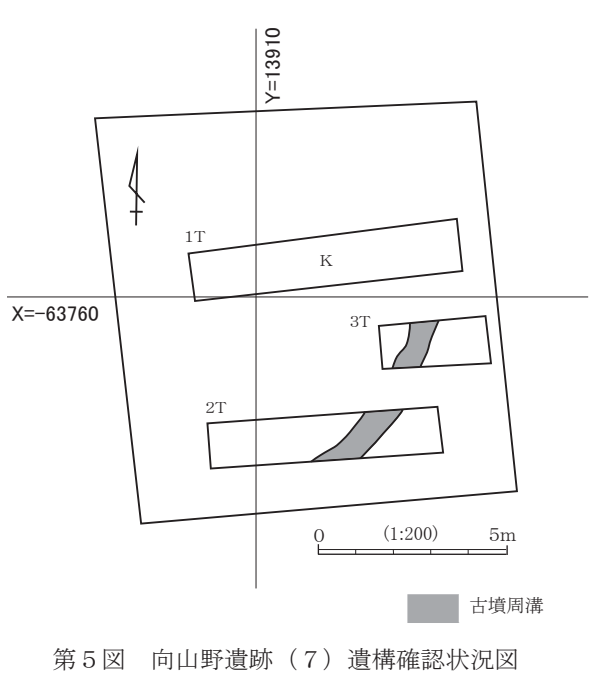
第8次調査 本調査区からは、一部攪乱により消滅しているものの、円墳周溝の2分の1弱が確認された（第19号墳）。墳丘は削平されていた。古墳の内径は推定7.00m、外径は推定8.00mを測る。周溝の幅は、確認面で0.52～1.04m、底面で0.12～0.56mを測る。確認面から底面までの深さは0.15～0.25mを測り、断面形態は皿状あるいは逆台形状を呈する。覆土は、上層は黒味の強い黒色土で、下層は黒褐色土を呈し、含有物は少ない。掘り方は、周溝東側においては比較的平らで、粒径が小さいロームブロックを多く含有する土で埋めている一方、南側は凹凸し粒径が大きいロームブロックで埋めているようである。調査を行った範囲では主体部は確認されなかった。出土した遺物は、周溝内から古墳時代土師器28.56g、礫27.94g、攪乱部分から古墳時代土師器31.26gである。1は周溝南東部の覆土半ばで出土した。頸部から胴部下半の約6分の1が遺存する。古墳時代後期のミニチュア土器と思われる。内外面に赤彩が施される。2は調査区南隣の畑で表採した古墳時代須恵器坏蓋と思われる。頂部の4分の1ほどが遺存する。

3. まとめ

第19号墳は、出土遺物やこれまで確認された古墳の状況から、古墳時代後期に築造されたと考えられる。これまで、見かけの外形が10mを測る第12号墳が本古墳群の中で最小であったが、第19号墳の推定外形は7.00mで、本古墳群で確認されている古墳の中で最小になるものと想定される。



第4図 向山野遺跡・真里場古墳群周辺地形図



土層説明
 1. 黒色土 粘性強い しまり弱 ϕ 3mm ローム粒微
 2. 黒褐色土 粘性弱い しまり弱 ϕ 5mm ローム粒少
 3. 暗褐色土 粘性弱い しまり強 ϕ 10mm ロームブロック多 掘り方
 4. 暗黄褐色土 粘性強い しまり強 ϕ 20mm HLB少 ローム主体 周溝掘り方



第6図 向山野遺跡（8）（真里場古墳群第19号墳）遺構実測図・出土遺物実測図

第4章 寺野台遺跡第6次調査

1. 周辺の遺跡と環境（第6図）

寺野台遺跡は、小櫃川の支流・松川に北面する標高約 60 m の台地上に位置する。

本遺跡は平成 17 年に第 1 次・第 2 次、平成 18 年に第 3 次、平成 20 年に第 4 次、平成 25 年に第 5 次の調査を行っており、9 世紀後半から 10 世紀初頭の集落遺跡として周知されている。過去の調査範囲は、本調査範囲の東側にあたり、これまでに平安時代の竪穴住居 15 軒が報告されている。

本遺跡の周辺には、川原井廃寺・永吉台遺跡群・打越岱遺跡・樋爪遺跡といった奈良・平安時代の遺跡が多く所在する。川原井廃寺では、四面庇付掘立柱建物が見つかった。永吉台遺跡群遠寺原地区では 9 世紀代の村落内寺院が検出され、永吉台遺跡群西寺原地区は 10 世紀代の土器生産集落として名高い。



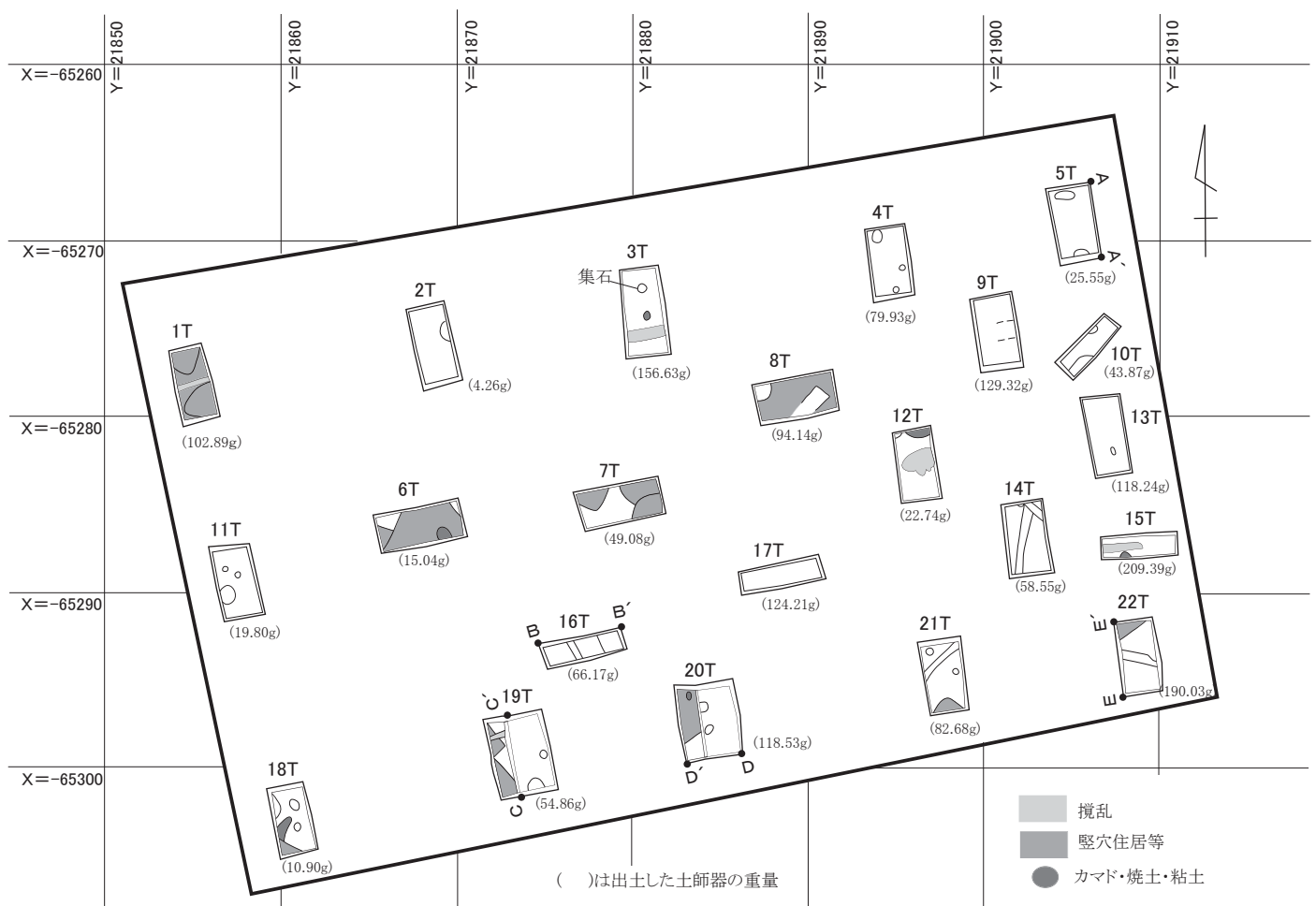
第7図 寺野台遺跡周辺の地形・位置図
(1 : 4,000)

2. 調査と遺跡の概要（第7・8・9図、図版3・4）

調査方法 調査は、寺院建設事業に伴うものである。4,957 m²を調査対象として実施した。確認調査トレンチは全部で 59 箇所設置し、調査地の約 10% である 485 m²を調査した。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。トレンチは 2 m × 4 m で設定し、状況により拡張した。遺構確認面は、耕作土直下の黒褐色土層 A およびソフトローム上面で行った。

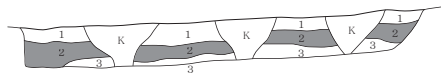
遺構 調査区は大きく北側と南側に分かれ、全体に南から北へ向かって傾斜し、南端の標高約 67.5 m に対し北端は約 59.5 m と南北で標高差が 8 m ある。

南調査区は、深さ 10 cm ～ 40 cm の耕作土の下から平安時代の遺構が確認できる黒褐色土層 A が出現する。1 T は地表から約 40 cm の攪乱の下に竪穴住居の覆土と考えられる焼土・粘土を含んだ暗褐色土が現れ、竪穴住居 2 軒分の遺構プランを確認した。トレンチ内は全体的にブロック状になった硬質面の残骸のような土が散見でき、2 軒の間にもう 1 軒重複していると思われる。2 T は黒褐色土層 A を掘り込む土坑が確認できた。3 T は約 40 cm の耕作土下は全体に暗褐色土が広がり、その面で性格不明の集石と、カマドと思われる粘土を検出した。粘土の周囲には焼土も散見でき、竪穴住居のプランは確認できなかったもののカマドを有する竪穴住居と判断できるであろう。集石は用途不明であるが、特に土坑のような掘り込みの痕跡は見られず、径 30 cm ほどの範囲に礫が 24 個、計 1,598.43 g 集まっており、礫とともに 9 世紀後半頃の土師器坏片 1 点が出土した。4 T ・ 5 T ・ 13 T はソフトローム上面でピットを検出した。6 T ～ 8 T は、それぞれトレンチ内全体が竪穴住居の覆土と考えられる暗褐色土で占められている。いずれも地表から 10 ～ 20 cm 程度の深さで確認でき、6 T はカマドらしき焼土を検出している。9 T は遺構確認面より掘り下げてしまったが、断面から溝を確認できた。10 T はトレンチの南角で比較的大型の土坑を検出した。11 T は深さ 50 ～ 60 cm まで攪乱を受けており、ソフトローム上面でピットを検出した。12 T の中央部は風倒木痕と考えられるが、トレンチの北壁に遺構が見られ、北東角の遺構は竪穴住居の可能性はある。14 ・ 16 T は溝を検出した。16 T の東端の溝は深く幅広い。15 T では 10 cm 程度耕作土を掘り下げた地点でカマドを検出した。これは 22 T で検出している竪穴住居のカマドの可能性はある。18 T は 30 cm 程度耕作土を掘り下げた地点で、カマドを有する竪穴住居 1 軒を検出した。19 T ・ 20 T は、それぞれトレンチ内の東側を遺構確認面より掘り下げ



5T

66.60m — A — A'



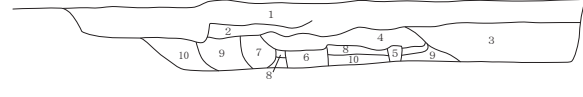
A黒褐色土層

5T土層説明

1. 耕作土
2. 黒褐色土 ローム粒子、ローム粒多く含む。
3. ソフトローム

16T

66.60m — B — B'

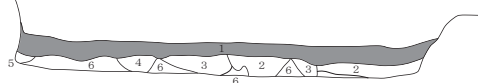


16T土層説明

1. 耕作土
2. 褐色土 全体にローム含む。
3. 黒色土 溝。ローム粒子含む。
4. 黒褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。
5. 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。
6. 暗褐色土 溝。ローム粒子、ローム粒を含む。
7. 黒褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。
8. 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。
9. 明褐色土 全体にローム含む。
10. ソフトローム

19T

66.60m — C — C'

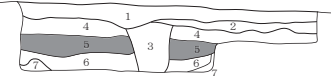


19T土層説明

1. 黒褐色土(A) ローム粒子、ローム粒を多く含む。しまりなし。
2. 黒褐色土 1より暗い。ローム粒子、ローム粒を多く含む。ややしまりあり。
3. 黒褐色土 2より明るい。ローム粒子、ローム粒を含む。ややしまりあり。
4. 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。小ロームブロック含む。
5. 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。
6. ソフトローム

20T

66.60m — D — D'

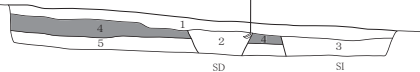


20T土層説明

1. 耕作土
2. 黒褐色土 ローム粒子少ない。しまりなし。
3. 褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。焼土粒子少量含む。しまりなし。
4. 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒を含む。しまりなし。
5. 黒褐色土(A) ローム粒子、ローム粒を多く含む。しまりなし。
6. 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。しまりなし。
7. ソフトローム

22T

67.80m — E — E'



22T土層説明

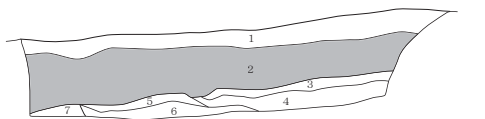
1. 耕作土
2. 暗褐色土 溝の覆土。ローム粒子含む。
3. 暗褐色土 竪穴住居の覆土。ローム粒子、ローム粒、焼土粒子を多く含む。
4. 黒褐色土(A) ローム粒子、ローム粒を少量含む。
5. ソフトローム

0 (1 : 80) 2m

第8図 寺野台遺跡(6)遺構確認状況図1南調査区



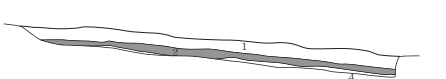
25T
60.20m — A



25T土層説明

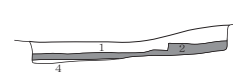
1. 耕作土
2. 暗灰褐色土(B) 平安時代の遺物多く含む。下に行くほど遺物多くしまりあり。
3. 明褐色土 遺構覆土 ローム粒子、ローム粒を非常に多く含む。
4. 暗褐色土 遺構覆土 ローム粒子、ローム粒を多く含む。ロームブロック小 含む。
5. 明褐色土 遺構覆土 ローム粒子、ローム粒を非常に多く含む。
6. 黒褐色土 遺構覆土 ローム粒子を含む。
7. ソフトローム

32T西壁
59.40m — B



32T北壁

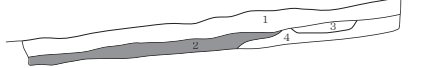
59.40m — B'



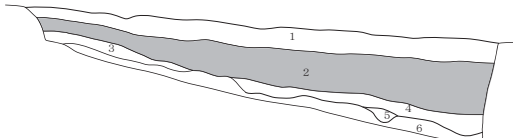
32T共通土層説明

1. 耕作土
2. 黒褐色土(A) ローム粒子、ローム粒、小ロームブロックを多く含む。
3. 暗褐色土 ローム粒子、ローム粒、小ロームブロックを多く含む。
4. ソフトローム

32T東壁
59.40m — C



58T
60.20m — D



58T土層説明

1. 耕作土
2. 暗灰褐色土(B) 平安時代の遺物多く含む。
3. 暗褐色土 ローム粒子、多く含む。
4. 黒褐色土 ローム粒子、多く含む。
5. 暗褐色土 ローム粒子、多く含む。
6. ソフトローム

0 (1 : 80) 2m

第9図 寺野台遺跡(6)遺構確認状況図2北調査区

てしまっているが、西側の一段高く残した部分から竪穴住居を検出した。19 Tは竪穴住居 2 軒検出、20 Tはカマドを有する竪穴住居を 1 軒検出した。21 Tはトレンチ南端で竪穴住居の可能性のある遺構を検出したほか溝 1 条を検出した。22 Tは 10 cm程度耕作土を掘り下げた地点で竪穴住居を 1 軒と溝 1 条を検出した。竪穴住居のカマドは 15 Tで検出されたものの可能性がある。溝から土師器の甕の底部が出土した（第 9 図 22 T-2）。

北調査区は西側の 23 T～45 T、東側の 46 T～59 Tの間で区画されているため、双方の間ではやや様相が異なるが、過去に土地が大きく改変されている様子で、調査範囲の南半分は大きく攪乱を受ける。42 T～45 Tは、20 cmの表土→20 cmの耕作による攪乱を受けた土→ソフトロームと達し、遺構確認面はすでに掘削された状態であった。29 T～31 T、33 T～41 Tも同様に、トレンチ全体に大きく攪乱を受けているが、一部のトレンチでは、攪乱と攪乱の間に遺存した狭い箇所遺構の残骸が確認できた。29 Tは、地表から 56 cmの深さまで攪乱を受けていたが、その下に竪穴住居らしい遺構が残されていた。34 Tは攪乱の中に白色粘土の集中箇所があり、破壊されたカマドの可能性があるので竪穴住居 1 軒と数えた。トレンチの東端と西端は辛うじて攪乱を免れているが、北東角にも遺構らしき影が見える。35 Tも攪乱と攪乱の間にわずかに遺構が確認できた。36 Tはトレンチの中央に、南北に細長く攪乱を免れた部分があり、ここに 1 軒の竪穴住居のカマド部分が遺存していた。両脇の攪乱部分も耕作によりかき回されているものの、竪穴住居の覆土は遺存しているようである。38 Tはトレンチの東端を除いてほとんど攪乱であり、遺構は確認できなかったが、わずかに残された部分に遺物が集中していた。

調査区北端の 23 T～28 Tは、20 cm程度の耕作土の下に平安時代の遺物を多く含む暗灰褐色土 B が厚く堆積し、深くなるほど遺物も多くなり締まりが出てくるが、この層中では遺構は検出できず、後世の土地改変により大きく南から北へ動いた土のようである。この暗灰褐色土層 B の下に平安時代の遺構を確認できる黒褐色土層 A が存在する。23 T～25 T、27 T・28 Tでは竪穴住居の可能性のある遺構を検出した。重複とトレンチ内での判断であるため不確定ではあるが、23 T 1 軒・24 T 2 軒・25 T 2 軒・27 T 2 軒を数え、28 Tは攪乱を受けるものの、カマドを持つ竪穴住居 1 軒を検出した。32 Tは耕作土の下に黒褐色土層 A がわずかに残る。

北調査区東側の 51 T～57 Tのうち、南端の 56 T・57 Tでは地表から 20 cm、51 Tでは地表から 30 cmで耕作土の直下にソフトロームが露出し、過去に一度掘削を受けている様子である。46 T～50 T、58 T・59 Tは、23 T～28 T同様、奈良・平安時代の遺物を多く含む暗灰褐色土層を有し、北側へ傾斜する。

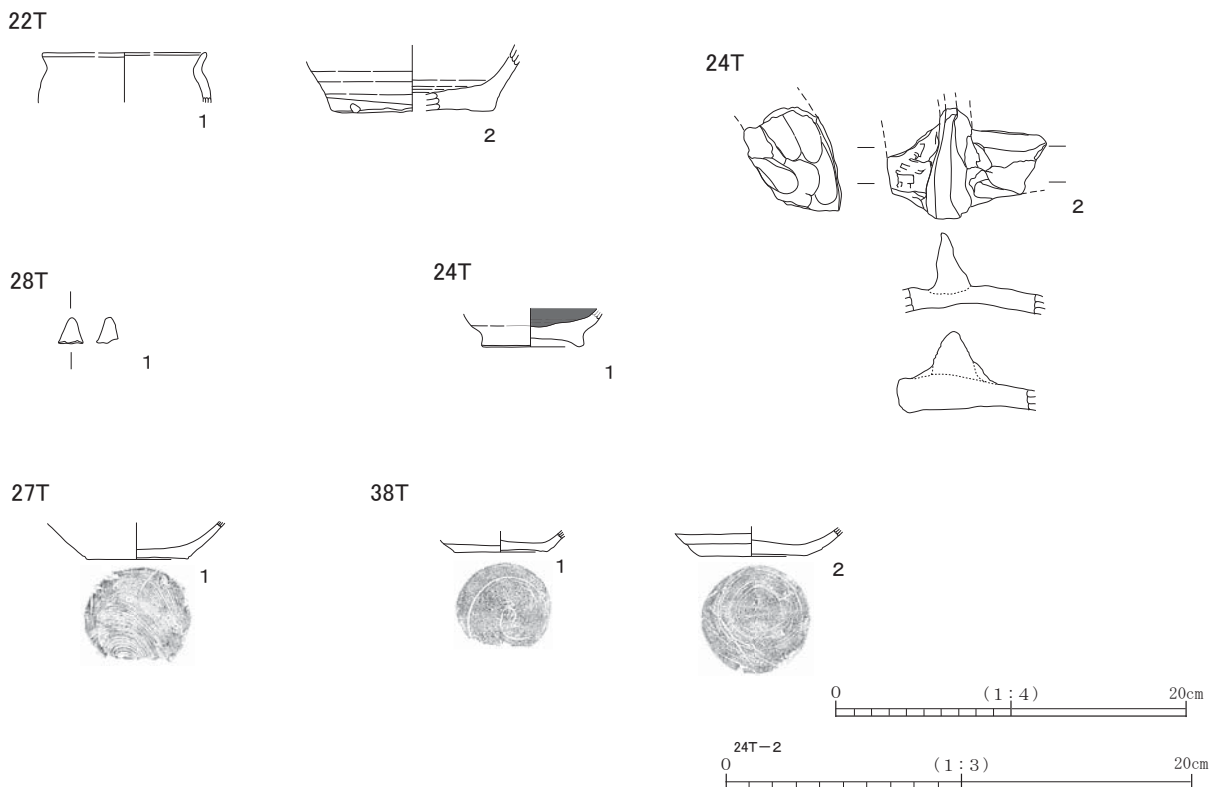
遺物 出土遺物の大半は 9 世紀後半～10 世紀頃の土師器である。各トレンチの土師器出土量については、第 8・9 図中に記載した。土師器以外の出土遺物は、9 Tで須恵器 1 点・5.26 g、17 Tで須恵器 1 点・16.87 g、18 Tで鉄製品 1 点・4.37 g、24 Tで土製品 1 点・54.21 g（第 9 図 24 T-2）、26 Tで土師質土器 1 点 8.06 g、27 Tで須恵器 1 点・17.36 g、28 Tで須恵器 8.44 g、陶器 9.90 g、土製品 1.38 g、33 Tで灰釉陶器 15.27 g、34 Tで須恵器 6.79 g、42 Tで須恵器 1 点 11.22 g、56 Tで須恵器 10.00 g が出土している。トレンチ外では、北調査区で須恵器 1 点・61.46 g、南調査区で瓦質土器 2 点・67.72 g、灰釉陶器 1 点・10.18 g を表採した。なお、調査範囲の全域にわたり土師器片が多く分布していたが、細片が多く耕作により大きく移動していると思われるため、採集はしていない。

第 9 図 22 T-1 は、広口壺と考えられる。復元口径は 9.4 cm。残存高は 2.9 cm。色調は暗褐色で、胎土に雲母・白色粒子を含む。22 T-2 は、22 T内の溝からの出土である。甕の底部で、底部の 40%程度の残

存。復元底径は9.4 cm、残存高は3.9 cm。底面は回転ヘラケズリ、色調は橙色で、胎土に雲母・白色粒子を多く含む。24 T-1 は、椀の底部である。底径は5.5 cm、残存高は2.2 cm。高台付で内面は黒色処理を施す。外面の色調はにぶい橙色で、胎土に雲母を少量含む。24 T-2 は、置きカマドの可能性のある土製品で、色調は橙色、胎土に雲母・白色粒子を少量含む。置きカマドと考えれば、焚口のある正面の底部の一部である。作りは粗雑で、焚口にあたる面は比較的丁寧になでて平らにしてあるが、他の部分は粘土を貼りつけた後、粗くなでて仕上げている。27 T-1 は坏の底部である。底径5.9 cm、残存高2.1 cm。底面は回転糸切り、色調は橙色で、胎土に雲母・白色粒子を多く含む。28 T-1 は、香炉蓋のツマミと考えられる。色調はにぶい橙色で、胎土に白色粒子白色針状物質を含む。38 T-1・2 は坏の底部で、いずれも底面は回転ヘラケズリ、色調はにぶい橙色で、胎土に雲母・白色粒子を多く含む。1 は底径5.4 cm、残存高1.2 cm。2 は底径6.2 cm、残存高1.7 cm。

3. まとめ

以上、不確定な部分はあるが竪穴住居32軒を検出し、うち8軒はカマドを有する。過去の調査に引き続き、9世紀後半～10世紀の集落が西側にも展開していることが明らかになった。北調査区の南半分は耕作等の攪乱により遺構が失われているが、本来は今回の調査範囲全面に集落が広がっていたと考えられる。



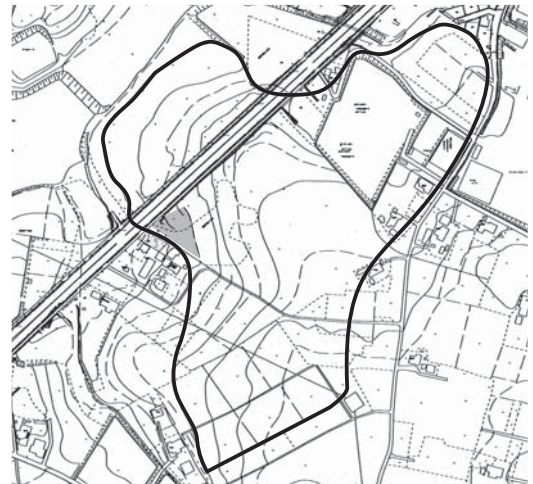
第10図 寺野台遺跡(6)出土遺物実測図

第5章 百々目木C遺跡第2次調査

1. 周辺の遺跡と環境（第10図）

百々目木C遺跡は境川上流域左岸の標高約28mの台地上に立地する。遺跡周辺は樹枝状に小支谷が入り込み、複雑な地形を呈する。今回の調査区の北西に隣接する第1次調査では、縄文時代早期条痕文期の炉穴、陥穴を検出した。

周辺には縄文時代早期炉穴群を持つ遺跡が多く立地する。本遺跡の西側に寒沢遺跡、北東には中六遺跡が所在し、北に近接する清水頭遺跡からも縄文時代早期炉穴が検出されている。このことから本遺跡周辺は縄文時代早期における活動拠点の一つであったと思われる。



第11図 百々目木C遺跡（2）

周辺の地形・位置図（1：8,000）

2. 調査の概要（第11図、図版5）

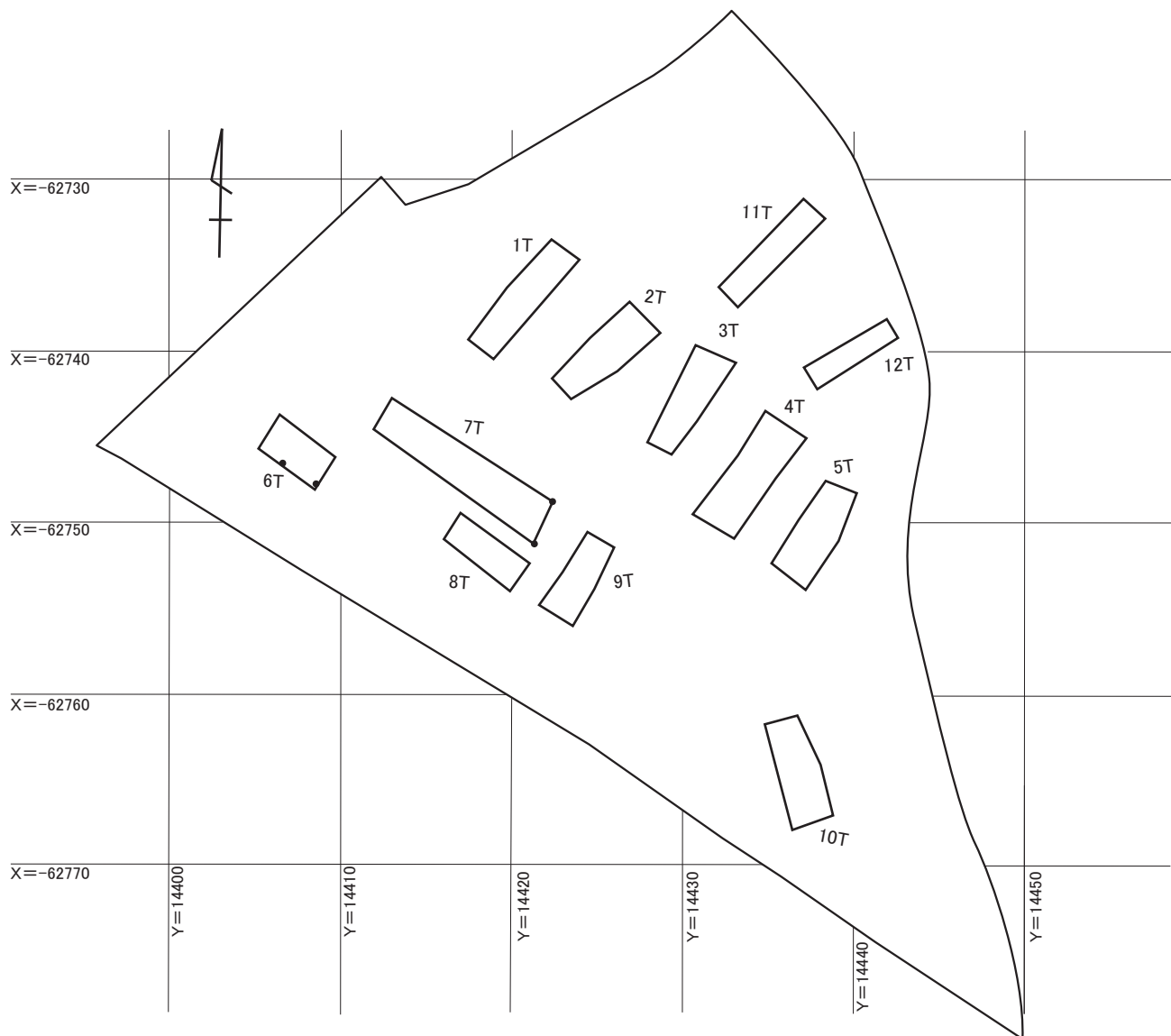
調査方法 調査は資材置場造成に伴い1,500 m²を調査対象として実施した。現地は樹木が繁茂していることから調査の制約を受けたため、トレンチは調査可能な個所に任意に配置している。トレンチの掘削は重機により行い、遺構確認作業は人力により行った。遺構確認面はソフトローム層上面とした。

遺構 今回の調査では遺構は確認されなかった。調査区は南西側へ傾斜しており、特に調査区中央の1～5トレンチ部分が大きく傾斜する。1～5 Tは表土直下、0.3 mでソフトローム漸移層が露呈した。削平を受けていると考えられる。一方、調査区西側の6～9 Tは現状でほぼ平坦であるが、遺構確認面は南西側へ傾斜しており、盛土により平坦に整地していることが明らかになった。特に最も西に位置する6 Tは盛土が厚く、現表面からソフトローム層上面まで約1.8 mを測る。また、6～9 Tは過去に削平をあまり受けておらず、旧表土は良好に残存していた。新期テフラ層（Ⅱc層）が堆積しているが、堆積時期は不明である。調査区南の10 Tは大規模な攪乱を受けていたが、遺構確認面は遺存していた。調査区北東の11・12 Tは現表面はほぼ平坦だが、遺構確認面は南西に傾斜する。

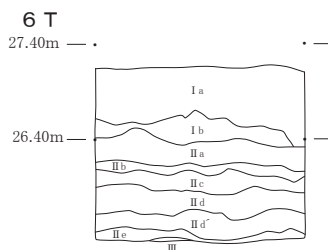
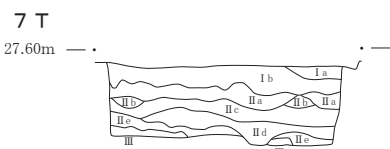
遺物 縄文土器を28点、352.39 g 検出した。早期撚糸文土器のうち、単節縄文が施される土器は5点、76.39 g、撚糸が施される土器は7点、114.45 g を量る。その他、繊維を含む無文土器が13点、154.89 g、条痕文土器が1点、6.66 g 出土した。これらは主にⅡe層から出土している。調査区西側の6～10 Tから集中して出土しており、その他の個所では3 Tから1点のみである。1～4は撚糸文が施される土器である。いずれも胎土は白色砂粒を多く含む。1・2は口唇部が肥厚し、1はYRが施される。2は判別が困難だが、撚糸が施されている。3は単節RLが施される。体部では絡条体を回転させ、口唇部では圧痕して施文している。口唇部は直立して立ち上がる。4は径3 mmほどの大粒の砂粒を胎土に含み、YRが施される。5は繊維を含む無文土器である。器厚が厚く、粗雑である。6は条痕が施される。

3. まとめ

今回の調査では遺構が確認されなかった。隣接する第1次調査地では緩やかな傾斜地に縄文時代早期炉穴及び陥穴が展開していたが、部分的に形成されていたものと考えられる。



0 (1 : 400) 10m

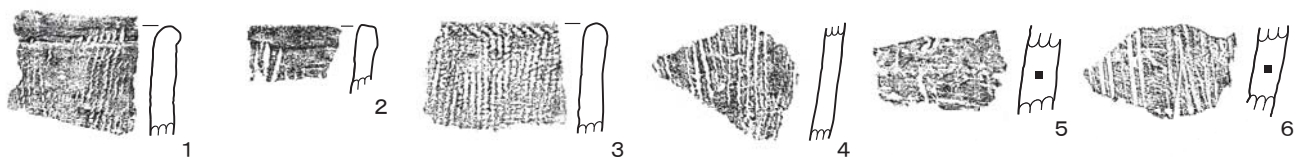


土層説明

- I a. 盛土層
- I b. 褐色土 表土 しまり強い 白色砂(φ1mm)混入
- II a. 黒褐色土 褐色土が斑に混入 しまりあり
- II b. II a同様だが褐色土多い しまりあり
- II c. 褐色土 テフラ層 炭化物少量混入 しまりあり
- II d. 暗褐色土 褐色土が斑に混入 しまりあり 赤色スコリア少量
- II e. 褐色土 漸移層 ローム斑に混入 しまりあり
- III. ソフトローム

II d'. 色調 = II dよりやや明るく

0 (1 : 80) 2m



■ 胎土に繊維を含む

0 (1 : 3) 10cm

第12図 百々目木C遺跡(2) 遺構確認状況図・出土遺物実測図

第6章 山野貝塚第6次調査

1. 周辺の遺跡と環境（第13・14図）

山野貝塚は、境川水系と小櫃川水系の分水界に当たる標高約35～37mの台地上に位置する。北側は境川から延びる浅い谷が入り込み、南側は小櫃川水系の支流によって形成された深い谷に面し、両水系によって形成された谷の最奥部に位置することにもなる。

本遺跡は、大正時代から調査が実施されている。正式な調査は昭和48年の調査からで、今回を含めて6回の調査が実施されている。昭和48年の調査は送電線の鉄塔建設に伴い実施され、東側貝層の中心部分を調査し、多量の遺物が発見された。特に獣魚骨の出土量は膨大で、東京湾東岸の貝塚群を考えるうえで極めて重要な資料である。平成4年には千葉県重要貝塚として調査が実施された。広範囲のボーリング調査を実施し、本貝塚が東西約140m、南北約110mの範囲に相弧状に広がる貝層と複数の地点貝層で構成される貝塚であることが判明した。また、貝層の広範囲にトレンチを設定し、山野貝塚の概要が把握された。検出された遺構は縄文時代後期の住居8軒、土坑15基、貝層20箇所である。その後、平成12年に袖ヶ浦市指定史跡、平成21年に千葉県指定史跡に指定され、県内でも重要な貝塚として周知されてきた。平成23年度以降、保存に向けた範囲確認調査を実施し、貝層を伴う集落の展開された範囲が明らかとなりつつある。

周辺の遺跡を概観すると、北側の浅い谷を挟んだ対岸には、縄文時代後期初頭～前葉の伊丹山遺跡が所在する。伊丹山遺跡は本遺跡に先行する集落あるいは同一集落とも考えられ、本遺跡との関係が深い。東側に所在する角山遺跡では、遺構は検出されないものの、本遺跡と同時期の遺物が出土している。小櫃川水系の谷を挟んだ南側約1kmには縄文時代後期前半を主体とする宮ノ越貝塚が所在する。周辺の西ノ窪遺跡、境No.2遺跡からも堀之内1式期の遺構が検出されており、宮ノ越貝塚周辺は山野貝塚周辺と並んで、縄文時代後期前半期の拠点となしていたと考えられる。小櫃川を挟んだ南岸に目を向けると、上宮田台遺跡や祇園貝塚といった縄文時代後・晩期の拠点となる集落が所在する。

2. 調査と遺跡の概要（第15図、図版6）

調査方法 調査は遺跡北側の範囲確認を目的として、調査対象面積1,666㎡のうち36㎡の範囲で実施した。対象範囲の東西両端に1×6mのトレンチを直線的に設定し、表土除去及び遺構確認は人力で行った。

遺構 遺構は検出されなかった。調査範囲は南西から北東に向かう緩斜面で、東側は地表面から0.2～0.45mで地山ローム層に達するが、大部分はローム層まで現代の整地を受けていた。一方西側は0.4～0.9mでローム面に達し、上部は現代の整地を受けているものの、その下部には自然層が堆積していた。38Tの整地層直下では、新規テフラと思われる暗黄褐色土が堆積していた。

遺物 遺物出土量はわずかである。出土遺物は以下のとおりである。

33T－堀之内1式土器58.67g、不明縄文土器21.50g、礫29.12g、34T－堀之内1式土器8.78g、不明縄文土器5.36g、35T－不明縄文土器16.44g、礫41.44g、36T－不明縄文土器18.33g、礫352.65g、37T－堀之内1式土器7.14g、堀之内式期粗製土器21.90g、加曽利B式土器22.04g、加曽利B式期粗製土器13.49g、不明縄文土器105.35g、38T－加曽利B式土器22.04g、不明縄文土器24.81g、表採－堀之内1式土器22.04g。

1は堀之内1式土器の胴部片で、単節LR施文後縦位沈線を施す。2は加曽利B式期の注口土器の口縁部から頸部であろうか。3は加曽利B式期の粗製土器の口縁部である。口縁部に紐線文が貼り付けられる。

3. まとめ

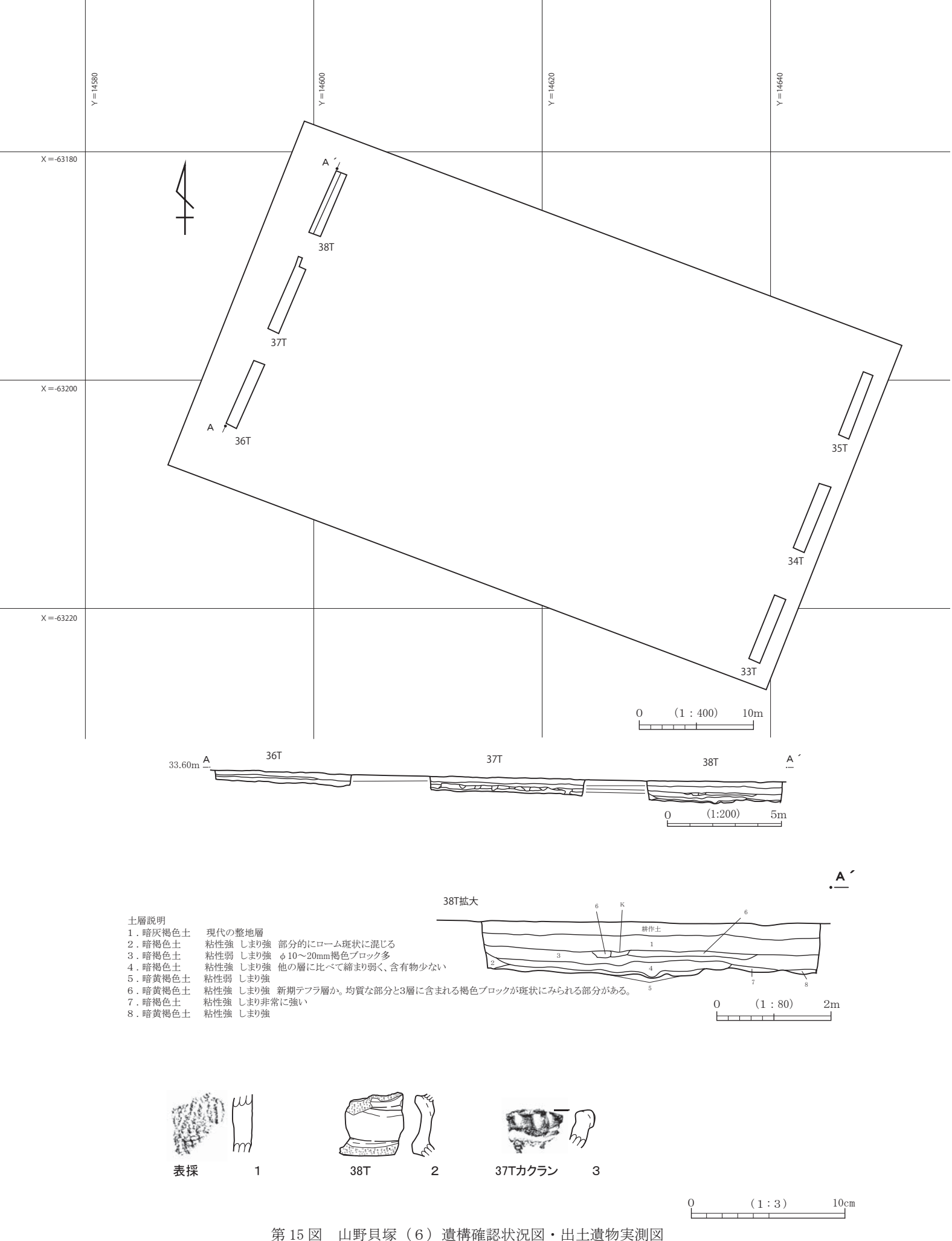
本調査範囲からは遺構は検出されず、遺物の出土もごくわずかであった。地権者からの聞き取りによると、前地権者が畑の黒色土をとって売却してしまったとのことで、本調査範囲の覆土上層が現代の整地を受けているのもそれに関係するのかもしれない。その整地行為によってローム面の一部が削平されてしまっているが、本調査の成果から、本調査範囲南西側が山野貝塚の遺跡範囲の北側限界ととらえられる。



第13図 山野貝塚周辺の地形・位置図



第 14 図 山野貝塚全体図



第 15 図 山野貝塚（6）遺構確認状況図・出土遺物実測図

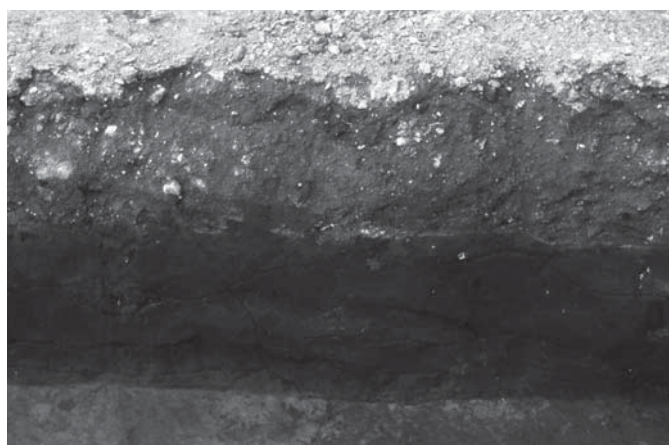
写真図版



1. 調査区近景 (西→)



2. 3 T 遺構確認状況 (西→)



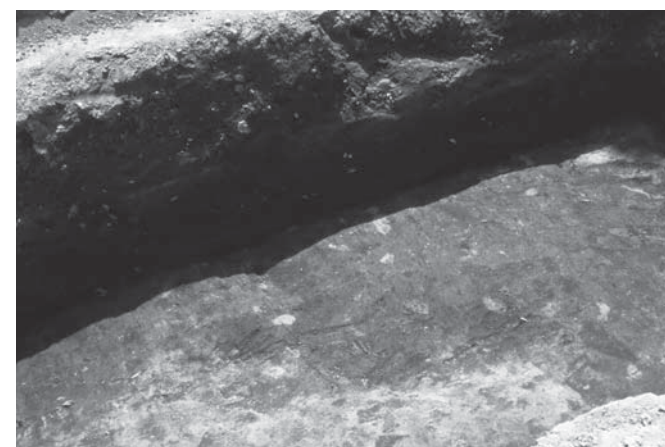
3. 3 T 土層断面 (南→)



4. 4 T 遺構確認状況 (北西→)



5. 調査風景



6. 10 T 遺構確認状況 (西→)



7. 12 T 遺構確認状況 (北→)



8. 出土遺物

向山野遺跡（7）（8）



1. 調査区近景（北→）



2. 2 T・3 T 遺構確認状況（北東→）



3. 第 19 号墳確認状況（東→）



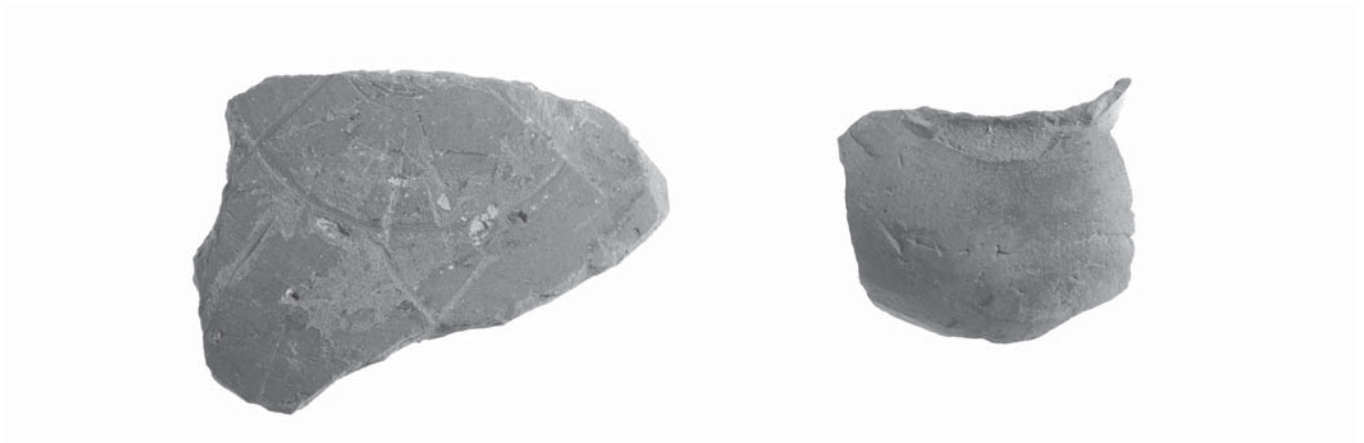
4. 第 19 号墳完掘状況（東→）



5. 第 19 号墳完掘状況（北東→）



6. 第 19 号墳周溝土層断面（東→）



7. 出土遺物



1. 南調査区近景 (北東→)



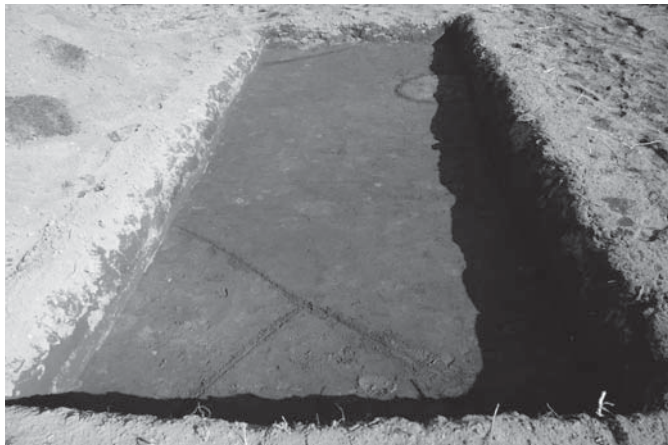
2. 北調査区近景 (南→)



3. 調査風景



4. 1 T 遺構確認状況 (南→)



5. 6 T 遺構確認状況 (西→)



6. 7 T 遺構確認状況 (西→)



7. 15 T 遺構確認状況 (西→)



8. 18 T 遺構確認状況 (北→)

寺野台遺跡 (6) 2



1. 19 T遺構確認状況 (北→)



2. 23 T遺構確認状況 (東→)



3. 24 T遺構確認状況 (南→)



4. 28 T遺構確認状況 (南→)



5. 出土遺物 22 T-1



6. 出土遺物 22 T-2



7. 出土遺物 28 T-1



8. 出土遺物 24 T-1



9. 出土遺物 24 T-2



10. 出土遺物 24 T-2 側面



11. 出土遺物 27 T-1



12. 出土遺物 38 T-1



13. 出土遺物 38 T-2

百々目木C遺跡 (2)



1. 調査区近景 (北東→)



2. 6 T西壁土層断面 (東→)



3. 7 T遺構確認状況 (南東→)



4. 8 T東壁土層断面 (北西→)



5. 出土遺物

山野貝塚（6）



1. 調査区近景（北東→）



2. 33 T 遺構確認状況（南東→）



3. 37 T 遺構確認状況（南西→）



4. 37 T 土層断面（南→）



5. 38 T 遺構確認状況（南西→）



6. 38 T 土層断面（北西→）



7. 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうごねんど　ちばけんそでがうらしないいせきはつくつちょうさほうこくしょ									
書　名	平成 25 年度　千葉県袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書									
副 書 名	宮ノ後遺跡第 2 次調査・向山野遺跡第 7 次調査・向山野遺跡第 8 次調査・寺野台遺跡第 6 次調査・百々目木 C 遺跡第 2 次調査・山野貝塚第 6 次調査									
編著者名	桐村久美子・田中大介・前田雅之									
編集機関	袖ヶ浦市教育委員会									
所 在 地	〒299-0292　千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1－ 1　TEL0438-62-2111									
発行機関	袖ヶ浦市教育委員会									
所 在 地	〒299-0292　千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1－ 1　TEL0438-62-2111									
発行年月日	西暦 2014 年 3 月 25 日									
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所　在　地			コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
				市町村	遺跡番号					
みやのうしろいせき 宮ノ後遺跡 第 2 次調査	ちばけんそでがうらしないうあきみやのもと 千葉県袖ヶ浦市神納字宮ノ本 3383 番 1 他			12229	SG077	35° 25′ 31″	139° 58′ 07″	20130508 ～ 20130516	245/ 2418.68 ㎡	確認調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特　記　事　項			
みやのうしろいせき 宮ノ後遺跡	包蔵地	縄文時代、古墳時代	近世溝状遺構 2 条、 近世道路状遺構 1 条、 近世土坑 1 基		古墳時代土師器、近世 銭貨、近世鉄製品		溝状遺構は宝永火山灰に被覆された層を掘り込んで おり、近世のものと思われる。道路状遺構は調査区 に隣接する率土神社へ向かい走行する。			
要　約	周辺には弥生時代～古墳時代の遺跡が数多く展開するが、本調査区においては近世遺構以外は確認されなかった。									
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所　在　地			コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
				市町村	遺跡番号					
むげざんやいせき 向山野遺跡 第 7 次調査	ちばけんそでがうらしないいとみ 千葉県袖ヶ浦市飯富 あざはまかいどう 字浜街道3002 番 1 の一部			12229	SG029	35° 25′ 31″	139° 59′ 11″	20130812	15/110 ㎡	確認調査
所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構		主　な　遺　物		特　記　事　項			
むげざんやいせき 向山野遺跡	包蔵地	古墳時代	古墳 1 基		なし		真里場古墳群を構成する新出の古墳が検出された。			
要　約	向山野遺跡南側の調査である。墳丘が削平された円墳の周溝を検出した。									
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所　在　地			コ　ー　ド		北　緯	東　経	調査期間	調査面積	調査原因
				市町村	遺跡番号					
むげざんやいせき 向山野遺跡 第 8 次調査	ちばけんそでがうらしないいとみ 千葉県袖ヶ浦市飯富 あざはまかいどう 字浜街道3002 番 1 の一部			12229	SG029	35° 25′ 31″	139° 59′ 11″	20130814 ～ 20130816	50 ㎡	記録保存調 査
所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構		主　な　遺　物		特　記　事　項			
むげざんやいせき 向山野遺跡	包蔵地	古墳時代	古墳 1 基		なし		真里場古墳群を構成する新出の古墳周溝の 2 分の 1 ほどが検出された。			
要　約	検出された古墳は新出の古墳であり、真里場古墳群の第 19 号墳となる。周溝から推定される外形は約 8 m である。									

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地		コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
寺野台遺跡 第6次調査	千葉県袖ヶ浦市川原井字寺地 637 番の 2 他		12229	SG098	35° 24' 43"	140° 04' 27"	20140110 ～ 20140123	485／ 4,957 m ²	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主 な 遺 物		特 記 事 項		
寺野台遺跡	包蔵地	奈良・平安時代	奈良・平安時代竪穴住居		奈良・平安時代土師器	奈良・平安時代竪穴住居を 32 軒検出した。うち 8 軒はカマドを有する。			
要 約	過去の調査に引き続き、9～10 世紀の集落が西側にも展開していることが明らかとなった。攪乱により遺構が失われている個所があるが、本来は調査区全体に集落が広がると推定できる。								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地		コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
百々目木 C 遺跡 第2次調査	千葉県袖ヶ浦市蔵波 字百々目木2905 番 1		12229	SG037	35° 26' 04"	139° 59' 31"	20140127 ～ 20140203	130／ 1,500 m ²	確認調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主 な 遺 物		特 記 事 項		
百々目木 C 遺跡	包蔵地	縄文時代	なし		縄文土器		調査区は南西に向かい強く傾斜している。調査区南西からは約 20 cmの新期テフラが堆積していた。		
要 約	縄文時代早期炉穴・陥穴を検出した第1次調査区と隣接しており、遺構の展開が予想されたが、検出されなかった。								
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所 在 地		コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
			市町村	遺跡番号					
山野貝塚 第6次調査	千葉県袖ヶ浦市飯富 3550 番 3 他		12229	SG110	35° 25' 49"	139° 59' 40"	20140212 ～ 20140221	36／ 1,666 m ²	保存目的調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主 な 遺 物		特 記 事 項		
山野貝塚	貝塚	縄文時代	なし		縄文土器		東側のトレンチでは地山面まで現代の攪乱を受けていた。一方、西側のトレンチは地山面までの堆積が厚く、一部に新期テフラと思われる暗黄褐色土が残存していた。		
要 約	本調査範囲からは遺構が検出されず、また遺物出土量もごくわずかであったことから、本調査範囲の南側が本遺跡の北限と捉えられる。								

2014 年 3 月 18 日 印刷

2014 年 3 月 25 日 発行

平成 25 年度
千葉県
袖ヶ浦市内遺跡発掘調査報告書

宮ノ後遺跡第 2 次調査・向山野遺跡第 7 次調査・向山野遺跡第 8 次調査

寺野台遺跡第 6 次調査・百々目木 C 遺跡第 2 次調査・山野貝塚第 6 次調査

発行 袖ヶ浦市教育委員会
〒 299-0292
千葉県袖ヶ浦市坂戸市場 1 番地 1
電話 0438-62-2111
印刷 ワタナベメディアプロダクツ株式会社
千葉県木更津市潮見 4 丁目 14 番 4 号